このサイトは宝川温泉の健全な発展を願って作成しており、特定の個人、団体を中傷あるいは攻撃したものではありません

ノン、宝川温泉って聞いたことある？

うん、群馬県にある温泉旅館でしょ

汪泉閣って言ったかな。

それでね、宝川って結構すごい温泉なんだよ。

へー　もっと詳しく聞きたいな。

まず宝川は創業が大正 8 年で，これは西暦 1919 年だからもう 100 年以上の歴史があるんだ。

ところでノン、ニューヨークに「ロイター」って言う世界的に有名な通信会社があるんだけど、そこで 2012 年に「世界の温泉ランキング」っていうのを発表してね、なんとなんと宝川温泉が世界第 6 位に選ばれたんだ。アジア地域からは宝川一軒だけだった。

あと最近では阿部寛さん主演の映画「テロマエロマエ II」のロケ地になったことでも注目を集めたね。それはいいんだけど、あの映画では宝川の「子宝の湯」がロケに使われていたが、電飾ギラギラで本来の自然な露天風呂の姿とはかけ離れていた。

ちょっと残念だったかな。

そーかー、でもロイター通信の世界第６位ってすごい事なんでしょ？

そーだね、すごいと言えばすごいけど、必ずしもそうは言えないところもあるんだ。それは日本の温泉場ってだいたい歓楽街を形成しているでしょ。例えば草津温泉、別府温泉、有馬温泉、登別温泉とかね。だから宝川の様に大自然の中にある「ポツンと一軒家」的な自然しか無いところは日本では本当に珍しい。

ロイターの選んだ世界の温泉の殆どはいわゆる保養所、あるいは療養施設の様な場所が多い。だから宝川温泉はこの意味ですごい希少価値のある温泉場とも言える。もっと言えば温泉県群馬の宝、いや日本の宝と言えないことも無い。

たいへんだー

そんな宝川温泉が近年、

いや、ずーっと前からだけど

小さな 北朝鮮 みたいになっちゃっている

んだ。

えー、それってどういう事！

ここで、最近の宝川温泉の惨状を反映するユーザーの厳しい評価を見てほしい。

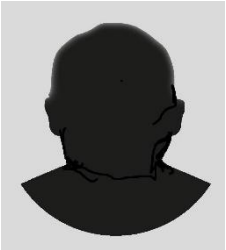
どーしちゃったのょー

宝川温泉さーん

お客様は見ていますよ

☞ フロント支配人に話しても、軽く流された

2023 年 1 月投稿 Tripadvisor



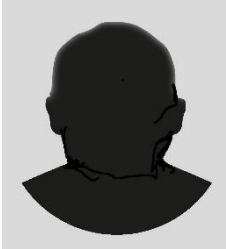
宝川温泉へようこそ

一泊しましたが、正直～この温泉宿は温泉以外何も良いところがないです。温泉目当てなら日帰り入浴にした方がお勧めです。 部屋の中のトイレはとっても臭い！水の流れは良くない！ フロント支配人に話しても軽く流されました。 フェイスタオルは繰り返し使った様な古いタオルです。今までに無い低レベルのホスピタリティに初めての経験でとても驚きました!!・駐車場の案内をされ車を停めた時には従業員は居らず、荷物はセルフで運び、チェックアウト時も誰も玄関先には出てこない徹底ぶり。あまり温泉頼りにしない方が良いと感じました。

温泉料理ももう一つの楽しみですが、一品目の料理の表面が乾いていたので作り置きしていたことがわかりました。 料理自体の質もあまり高くなく、団体客用の料理みたいです。 あまりクレーマーにはなりたくありませんが正直温泉の質に頼っている旅館だと思いました。もう少しお客様に感謝の気持ちを込めたサービスをして下さい。

☞ 食事が不味くて驚いた

2022 年 10 月投稿 Tripadvisor



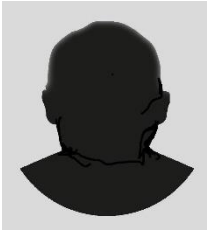
美味しいと評判をいただいております

露天風呂は川沿いに４つあり、程よい温度と素晴らしい景色で満足です。湯浴み着用のため、混浴でも問題なし。リラックスできました。内風呂も滑らかなお湯でずっと入っていても快適でした。非常に残念なのはバイキングの食事が朝晩、味がしない料理ばかりだったこと。カレーと角煮はまずまずでしたが、最初に置かれた芋料理はあまりにも不味くて食べられませんでした。バイキングなのに、２０分も経たずに早々に退散しました。温泉目当てなら日帰りがオススメです。従業員のかたは接客が良かっただけに本当に残念です。

☞ 最悪な旅館

2021 年 9 月投稿　Tripadivsor

今まで経験したことのない最悪な旅館です。



最高のサービスをご提供します

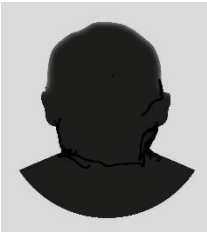
まず、従業員に殆ど笑顔がありません。サービス精神の微塵も感じません。部屋にドライヤーが無いと部屋からフロントへ伝えると、「フロントに取りに来てください！」と、部屋の中のお茶セットが自分でお茶を入れてくれと言わんばかりに床の間近くに置いてあり自分たちで入れたのですが、なぜかおしぼりが１個あったので、フロントに電話して３人ですがおしぼりが１つしか無いですがと伝えたら、「おしぼりは１個です」との返事！「はあ？？？と絶句」。正直￥19,500 円/１名でこれか？　窓のカーテンは大きく破れているのにほったらかし！敷布団は薄いマットレス・襖には大きなシミ。　まあこれでも、たぶん料理がすごいのではと思ったら、居酒屋料理の方がまし。我が女房の料理の方がまし！旅館でお決まりの夕食を数多く食べたが、こんなのは初めてで、惣菜屋さんの料理を購入して集めた方がまだましというレベルで、海外の方がこれが日本の温泉旅館の料理だと思われるのは残念です。二度と来ることはないですが、今後来る人がかわいそうです。

もう一つ言うと、隣のすだれ向こうのお客さんが、五穀米のごはんが出てきたのに対し、「白いご飯が欲しい」と言ったら、「ありません」との従業員の返事！　そのあとで、私たちが別の従業員さんに「白いご飯が欲しい」と伝えたら「わかりました」と持ってこられました。どうなってるの？？？？　怒りのままに記載。従業員の方の対応も笑顔でもてなす感じがなく、日本の「おもてなし」は期待できない見本であり、サービスとはこれではだめだと感じてみたい方は、是非お越し頂きその目で見てください。　温泉も汚く、アブだらけ。布団は薄いマットレス一枚だけ、しかも異常に短い。朝食を和食にしたらコーヒーすらありません。

これで外国の観光客にこれが日本の旅館だの、文化だのと理解されたら怒りすら感じます。

☞ 旅館の対応に疑問

2021 年 7 月投稿　Tripadvisor



お客様本位のサービスを心がけております

海外に在住しており、一時帰国の際に英国人の主人と 2 泊しました。

　サイトの写真や口コミを見て楽しみにしていましたが、到着して部屋に入ってすぐにがっかりしました。バス&トイレ無しの第一別館のプランにしましたが、壁ははげて穴があいていて、畳もけばたって酷い部屋でした。

　「よくこんな部屋にお金をとって客を入れるな」と思いながら、気を取り直し露天風呂に入りに行きました。到着してすぐに露天風呂に関する説明がありましたが、鍵用のセーフティボックスや脱衣所の側にあるロッカーについて、なんの説明もありませんでしたので、それらの存在に気が付かず、部屋の鍵、下着、タオルを持参したレジ袋に入れて、脱衣所のカゴに入れ、その上に浴衣等を畳んで載せてレジ袋が完璧に隠れた状態にし、30～40 分ほど露天風呂に入り、脱衣所に戻りました。

　私の浴衣類はカゴから出され散乱し、部屋の鍵と下着はレジ袋ごとなくなっていました。慌てて夫に声をかけ部屋に戻りました。旅館の人に部屋を開けてもらい確認しましたが、幸運にも貴重品を入れた金庫の鍵は夫が持っていましたので、部屋から何か取られた形跡はありませんでした。

　その後すぐに、フロントに泥酔した男性がなくなった鍵を届けにきたとのことです。しかし、下着は出てきませんでした。その男性が脱衣所から鍵と下着をとっていったのかどうかは「セキュリティカメラがあるわけでもないので分かりません」が旅館の返答でした。鍵には各部屋の名前がはっきりと書いてあります。また、夕食会場のテーブルには部屋の名前が書いたプレートが乗せてありました。それを見て「下着をとった男性がそのプレートを見て、とった下着が私のものとわかったのでは」と、大変気持ちの悪い思いをしました。

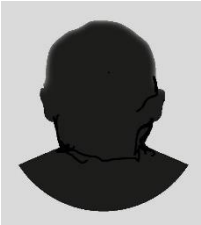
鍵を届けに来た男性は、たまたま何処かで鍵を見つけただけかもしれません。旅館側からは「泥酔されていてとても聞ける状態ではなかった」でした。結局、下着はでてきませんでした。また、旅館側からも、監視人に見回りをさせる、鍵用のセーフティボックスやロッカーの説明を徹底させる、張り紙等で注意をより促す等の今後の対応に関しての説明等も一切ありませんでした。「あんまり騒ぎ立てても。」と、泣き寝入りしましたが、宿泊中も自宅に帰ってからも、な

くなった下着のことをかんがえると、気持ちが悪いです。
　旅館側からは「部屋に誰か入ったことはないと思います」と言われましたが、後から、閉めたと思っていたハンドバッグのチャックが開いていたのも気になりました。もしかしたら、誰かに持ち物を物色されたかも。と思うと、落ち着かず嫌な気持ちになりました。

その他にも、
〇部屋にゴキブリの足と体の一部、虫の死骸が落ちていた。
〇露天風呂では女性は湯浴み着があったが、男性は薄いタオル１枚で前を隠すだけだったので、目のやり場にかなり困った。
〇食事の際、給仕している女性１人が、外国人に対して「デザート、スプーン」等のぶっきらぼうな言い方をしていた。英語を使うなら「ディス イズ デザート。プリーズ ユーズ スプーン。」等、もう少し丁寧な言い方を心がけるべき。＊最初、私も外国人と思われたのか、このような言い方をされ不快でした。
〇神様が祀られているとされている祠や民芸館等、埃だらけで掃除、手入れがされていない。
〇ボディローション等アメニティーが充実していない。天婦羅等の揚げ物が冷たい。下駄や浴衣が古すぎる。等で、貴重な一時帰国の旅行を台無しにされた気分です。露天風呂と、お料理の品数、すれ違う旅館のスタッフのにこやかな笑顔と挨拶で、辛うじて星１つにします。しかし、もう行こうとは思いません。露天風呂は素晴らしいので、色々と改善したらもっといい旅館になるのに残念です。

☞ 旅館の経営姿勢に疑問。二度と行かない

2021 年 5 月投稿　Tripadvisor



きめ細かい心づかいをモットーとしております

　雪解け水がごうごうと流れる川べりの露天風呂は新緑の頃で素晴らしかった。反面、旅館は別館に宿泊したが、部屋は悪くはなかったけれど料理は献立の工夫も味もあまりよくないし年配の仲居さんのとりつくろいのお愛想と「すぐお持ちします」といいながらなかなか配膳してくれず最後のごはんと汁物は廊下にしばらくおかれたままで運ばれてきたときは汁物がぬるくなってしまっていて熊汁の臭みもでてしまって口にすることができない始末。あまりのことに仲居さんに苦情を言うとずいぶんたってから女将が部屋まで詫びにきたものの「担当者に任せていまして」と年いった仲居のせいにするしまったく詫びる気持ちの伝わってこない言い訳に余計不愉快な思いをさせられた。

翌朝　昨夜の仲居さんが朝食の時「女将からのお詫びです」と言って小鉢の料理を持ってきたが他の客にも同じ料理を女将からの差し入れですと。客を馬鹿にしているのかと思ってしまった。フロントに活けてある生花も花瓶の中で萎れている。民具や古具などどこから集めてきたのかと思うようなものがたくさんほこりだらけでおかれている、熊の檻やら清潔感がないし、壁にかけてある額やショーケースの中に値札のついた茶器など統一なくセンスがまるで感じられず意図が理解できない。

料金はGW値段で当然だけれど中以上の設定で食事にやたらと肉が出されるのはつじつまを合わせるためかと思ってしまった。館内の浴場のふろイスは低すぎてかえって危険だし使いづらい。客に対する心遣いがなさすぎ。もう一度訪れる気にはなれない。救いは林道を散策したとき、オオルリの姿を見ることができ、さえずりを聞くことができたこと、送迎のバスを出してくれたこと。

せっかく他にない場所にたくさんの人が訪れる露天風呂があるのだから、また外国の人も多く来ているようなので旅館として貴重な休みにやってくる客が不快な思いをせず気持ちよく過ごせるような心遣いのある経営をしてくれることを願うばかりです。

☞ 二度と行かないと思います

2021 年 4 月投稿　Tripadvisor

またのご来館をお待ちしております

テルマエロマエで見てから気になっていたので旅行代理店のパックで利用しました。が、二度と行かないと思います。

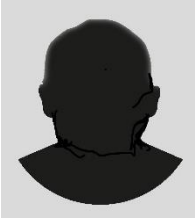
まず、送迎の予約のメールをしてもノーリアクション。再度メールして対応してくれました。その送迎バスも、なぜか駅でずーっと待たされ、運転手さんいわく、予約なしで飛び込みの人を待っているとのこと。なぜにちゃんと予約している側が待たされるのだか？ちゃんとわびの一言

くらいはほしいです。そしてそのバスも、空調をつけないのか、すっごく寒い。
　そしてやっと到着してからも、ラウンジのようなところに通され、紙とペンと鍵をドンと置かれ放置。書き終わったので声をかけるとお部屋にどうぞの一言だけ。食事の時間の確認のみで館内の説明一切なし。こんな不親切な旅館、はっきりいって初めて泊まりました。ラウンジには外国人のお客さんが多く、そちらにはご丁寧にかしづいて説明してました。外貨がかせげりゃ日本人はどーでもいいんですかね？

　そしてお風呂。内湯では中華系の観光客のマナーが悪く、びしょびしょで脱衣所に上がるわ、髪の毛は湯船に浸すわで、不快です。外国人対応の中国語を話すスタッフが居るようなので、ちゃんと宿の人から温泉のマナーについて説明してほしいです。外の混浴露店風呂はもっとひどく、かけ湯する人なんていません。水着で入ってきます。そうかと思えば前を全く隠さず入っている人もいます。そして写真をとりまくります。めまいがするくらいのマナーの悪さです。宿の人は露天に見回りなんてこないのでやりたい放題です。仕方ないので一番奥にかろうじてある女性専用露天だけ入りましたが、ここでも中華系の方々は脱衣したらいきなりドボン！タオルは浸すわ、泳ぐわで、愕然です。

　しずかに川のせせらぎを聞きながら温泉でゆっくりしたい人は絶対に行かないことをお勧めします。

☞ シモの毛・髪の毛・ゴミだらけ温泉　2021 年 投稿　Tripadvisor



清潔第一を心がけております

　とにかくお湯が汚いです。月１程度の清掃なのでは、というレベルです。
絆創膏や湿布、髪の毛やシモの毛、大量の藻のような浮遊物。真夏の海水浴場位汚なかったです、イメージ的には家庭用浴槽でいうとコップ１杯分の細かいゴミが浮いているレベルです。
　広い露天風呂なのである程度はしょうがないのは承知していますがそういう話ではありません、今までに行った数百軒のどの温泉よりも汚い・掃除のなされていないだけなのが丸わかりでとても残念な温泉でした。

　また受付従業員の方は無愛想で横柄でした。他の数組の方々と従業員の方のやり取りを聞いていてとても不愉快な気分になりました。面倒くさいのでしょうけど案内する仕事なんでしょう、もう少し嫌な顔をせず丁寧に教えてあげましょうよ。とにかく全てが観光地にあぐらをかいて商売しているだけのクオリティでした。ロケーションを考えても５００円でも再訪はないレベルです。水上には他にいい温泉がたくさんあります、それらに行かれるのが懸命かと思われます。

☞ 再訪はありません

2021 年 3 月投稿　Tripadvisor

日帰り入浴で利用しました。

次回はご宿泊を・・

まず驚いたのが受付の男性の接客態度の悪さ。受付にあった割引券をほしいとお願いしようとした所、まず自分の館内説明を聞けと話を遮られ、機械的な説明を聞かされました。大変不快でした。

また女性専用の脱衣場は臭く、露天風呂は蜘蛛の巣がはっており、内湯の壁は苔、脱衣場の床は一部もりあがっていたりで清潔さはありませんでした。
残念ですが、再訪はありません。

★ 期待していただけに残念

2021 年 投稿　食ベログ

東の横綱に選ばれた露天風呂を楽しみに訪問しました。
渓流をはさんで両側にある露天風呂は最高のロケーションです。が、落ち葉と言うより腐葉がたくさん浮遊しています。下駄やスリッパが大変汚く、気持ち悪いです。
お料理は本当にガッカリしました。

前菜は珍味の三種盛り、お刺身もイカそうめんを錦糸玉子でまいて薄く切ったもの、塩辛くて食べれない。と、クラゲ、ナマズ、刺し身と言うよりこれも珍味。天ぷらは、キスにあられと春雨をまとった、すべて冷たい(T_T)焼き物、アジの干物、練り物２品、朝食？より質素。唯一食べれたのは豚肉のすき焼き小鍋と深さ 1,5 センチの茶碗蒸しだけです。本当にガッカリしました。

☞ 久しぶりに行ったけど？

2020 年 11 月投稿　Tripadvisor

入口の係の人対応が悪いなあ～！平日だったので、あまりお客さんいなかったけど、案内の説明とか帰りのバスの対応が雑！一軒宿なので、普通にお客がくるから高飛車な感じ、お風呂の雰囲気はいいのになあ～。もう、行かないだろうなあ～

☞ 日帰り温泉は一度行けば十分かな？

2020 年 10 月　投稿

日本一の露天風呂、源泉掛け流し、のキャッチフレーズで初めて訪問。確かに露天風呂の規模は日本一。そして、紅葉と渓流の流れも素晴らしい。だがしかし、肝心の温泉は、まず、露天風呂の中が汚い。浴槽の底がヌルヌルしている箇所が少なからず。

そして、源泉掛け流しは本来、髪や垢はオーバーフローして流れる筈が、露天風呂は混浴なので浴衣を着用だが、内湯でしっかり温まって身体を洗って帰ろうと内湯に行ったが、露天風呂の大きさに比べて悲しい程、その浴槽は狭く、脱衣所も掃除が行き届かず。洗い場も男性は４つしかなく、シャワーとカランのお湯もチョロチョロレベル。水上温泉には他にもいい日帰り温泉がたくさんあります。¥2,000/一人の価値はないと思います。ま、外人さん連れて、とか、家族連れ、ならいいかと思いますが、泉質にこだわる温泉好き向けの温泉ではありません。

☞ 宝川温泉 汚い

2020 年 9 月投稿

宝川温泉には汪泉閣という、老舗のホテルがあります。もう古くて、全然楽しめませんでした。露天風呂にはアブばかり。浴槽も汚くて、全然ダメ。最低ランク。

☞ なめんなよ宝川

2020 年 5 月投稿

今まで入った露天風呂の中で一番汚かった。高い入浴料とってるんだから半日に一回ぐらい葉っぱ掃除しろよ！外人もたくさん来てるのに恥ずかしいわ！テルマエロマエで少し人気がでたからって調子にのるなよ、こんな営業つづけてたら誰も来なくなるぞ。

What’s going on there??

これだけ酷い評価を受けるって

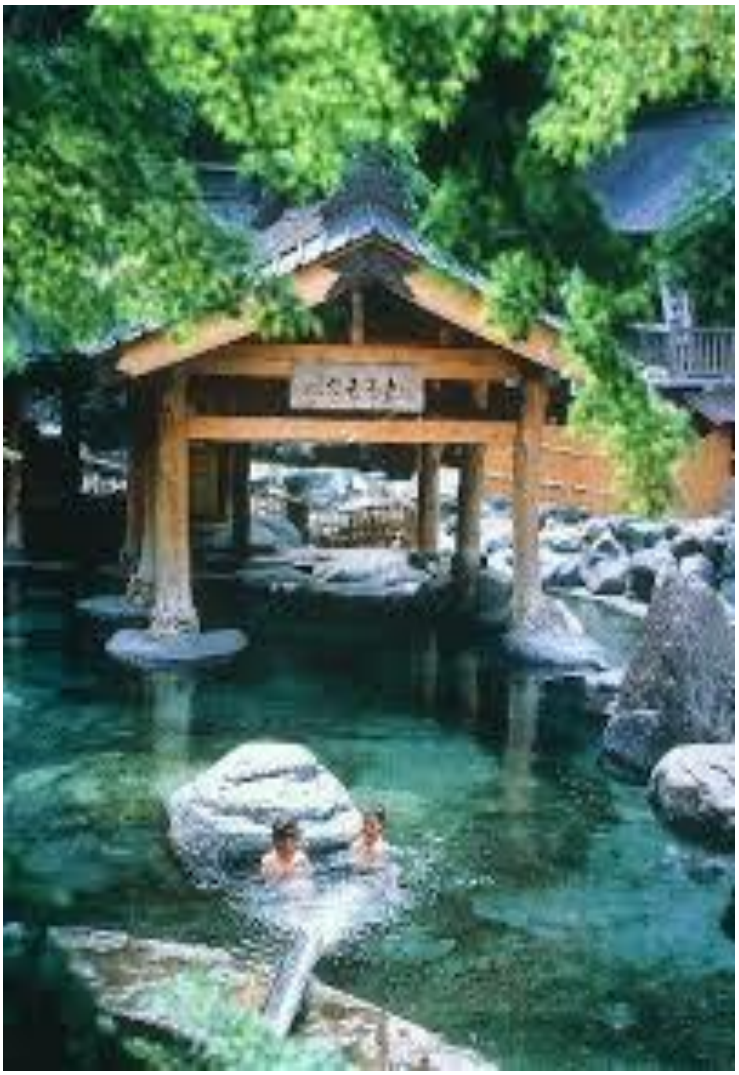
宝川温泉に何があったの！？

そう、この裏には長～い創業者一族葛藤の歴史があるっていったらチョット大げさかな？　でも、少し興味のある方は次の小説「宝川温泉物語」を是非ご一読いただきたいと思いまーす。

小説

宝 川 温 泉 物 語

宝川温泉の成り立ちと創業者一族のお話



世界第六位と謳われた在りし日の「魔訶の湯」

CONTENTS

はじめに
第一章　温泉旅館誕生までの経緯
　１　明治維新　戦前から戦中、戦後にかけて　維新の志士雲井龍雄
　２　小野伊与吉出生にまつわる謎
　３　不遇だった伊与吉の晩年と喜与三への事業継承
　４　温泉事業拡大へ
　５　父親喜与三と「熊のおじさん」長男伊喜雄の確執
第二章　発展に伴う混乱
　１　昭和 30 年代後半から昭和 40 年代前半
　２　弟喜与志の立場と生き残りをかけた策謀
第三章　混乱の時代
　１　宝川温泉史上最大の栄誉　皇太子殿下ご宿泊
　２　創業者喜与三の死そして長女さよ子の女将復帰
　３　伊喜雄の逆襲　虚偽の増資
　４　混乱から生まれた別館文山（ぶんざん）
　５　与志雄独裁の始まり
第四章　その後の運営
　１　与志雄の起こした傷害事件
　２　宝川温泉の魂、世界第六位の大露天風呂消える
　３　建設会社社長の暴走
　４　三千万円の愚行
第五章　ついに経営危機へ
　１　財務の行き詰まり
　２　着流し襷（たすき）掛けで銀行へ
　３　公庫担当、債権課に移行
　４　決算書に見る財務
第六章　破綻国家北朝鮮との類似性　そえでも宝川はつぶれない
　１　最重要ファクト
　２　みずほ銀行前橋支店が宝川温泉に対し不自然な融資を垂れ流す四つの理由
第七章　小野家世襲　思いもよらないザマーな結末
最後に

はじめに

2012 年秋、世界的通信会社「ロイター」が世界の温泉トップテンを発表しました。そのランキング第六位に日本の宝川温泉が選出されています。アジア圏からは唯一のランクインでした。

宝川温泉が世界の代表的温泉に選ばれた理由ですが、それはこの温泉の持つ豊かな自然環境にあります。周囲二十万坪に及ぶ天然林を一軒の旅館が所有し「源泉かけ流し」の温泉井は 3 本、その吐出量は毎分 1,600 リットルで摂氏 72°、東の横綱と謳われてきた大露天風呂群の圧倒的なスケールは世界第六位を十分満足させるものでしょう。

ロイター通信社の選考理由は以下のようなものです。

6. **T**akaragawa Onsen Japan （原文）

One of the best onsen (hot pools) in Japan is also one of the most scenic. The beautiful riverside setting of Takaragawa Onsen, combined with its healing waters, has secured its place in our top 10. Two hours from Tokyo, the onsen has four large outdoor baths (three mixed and one women-only), two indoor areas and several baths. The water has a reputation for helping nervous disorders, bad circulation, skin irritation, sore muscles and joints, aches, bruises and fatigue. Takaragawa Onsen is beautiful in every season, but it's in autumn when the leaves turn a golden red that the views are truly spectacular.

（日本語訳）

第 6 位　宝川温泉　日本

日本における最高の温泉の一つ宝川は美しい流れの川沿いにあり素晴らしい景観と共に我々の選んだ世界 10 大温泉に十分値するものと言える。東京から二時間ほどに位置する温泉には四つの巨大な露天風呂（三つは混浴で一つは女性専用）があり、そのほかにも幾つかの室内施設を持つ。温泉の効能には神経痛、血液循環、皮膚病、筋肉関節痛、疲労回復などがあるとされる。四季を通じてすばらしい景観を持つ宝川温泉であるが黄金のごとき赤に染まる紅葉シーズンは特に壮観なものである。

ロイター社の選定のコンセプトは温泉と自然の調和にあるのですが、しかし日本の温泉の多くはいわゆる歓楽街を伴う「温泉まち」を形成しているため対象となることが難しいのでしょう。

このように世界的に認知された宝川温泉ですが、現実は深刻な経営危機に瀕しています。2023 年現在金融機関への負債総額は 10 数億円を超え宿泊客も年々減少の一途を辿っているのが実態であり、この経営不振の原因が三代世襲によりもたらされた極度に進行している経営の劣悪さが原因であることが非常に残念なことであります。

宝川温泉第一別館と本館

第一章　温泉旅館誕生までの経緯

1　明治維新　戦前から戦中、戦後にかけて　維新の志士雲井龍雄

バブル経済華やかだったころ、日本全国に秘湯、露天風呂ブームが巻き起こりました。この秘湯ブームの火付け役となったのが群馬県みなかみ町水上温泉郷の一郭、宝川温泉汪泉閣（おうせんかく）にある大露天風呂「摩可(まか)の湯」です。そして女性専用露天風呂としては日本最大といわれる「摩耶（まや）の湯」を含むこの大露天風呂群を所有する温泉旅館汪泉閣は群馬県利根郡を地元とする小野家により同族経営されています。

この群馬県北部の寒村にある小作農家であった小野家の強い経済基盤を作り上げたのは小野伊与吉（いよきち）という人物でした。伊与吉は現在の群馬県片品村周辺で木材の切り出しに従事していましたが、とても精力的な人物で様々な人脈を構築して事業を成長させていきます。最盛期には国立公園尾瀬沼一帯から日光にかけての広大な山林を個人所有し鉱山業にも進出、現在でも尾瀬一帯を管理する小野家の番小屋遺構が確認出来るほどです。後に伊与吉は中央政界にも太いパイプを持つようになり、旧満州鉄道建設に使用する枕木を独占受注するなどの辣腕を振るったと記録されています。

2 小野伊与吉出生にまつわる謎

この伊予吉という人物、その出生には謎が多く、一説には明治維新の山形米沢藩士雲井龍雄という人物の落とし種であったという噂があります。雲井龍雄は米沢藩きっての秀才で若干二十六歳にして明治新政府の集(衆)院議員に任命されるほど傑出した才能を持つ政治家であり藤沢修平の歴史小説「雲奔る」にその生涯が描かれています。更に詩人としても名高く、彼の詩に託された気骨、情熱は後世の人々に大きな影響を与えたといわれています。しかし持ち前の純粋さ頑迷さが災いしたのでしょう、当時新政府内で横暴を極めていた薩摩、長州勢に強く反発、その見せしめとして僅か二十七歳にして江戸小伝馬町牢屋敷にて斬首、その短い生涯を閉じています。

山形県米沢市「清瀧山常安寺」に残る雲井辰雄唯一の肖像画

さてここで小野伊与吉が龍雄のおとし種という可能性を検証してみましょう。

その一

元々伊予吉は小野家に婿養子に入った人物であり、その実家入沢家では長男であるにもかかわらず婿に出しているのが当時としては不自然であること。

その二

米沢市の『清龍山常安寺』に残る龍雄の肖像画が伊予吉の遺影に良く似ている点。

その三

小野家の中でもこの伊予吉の存在は異才を放ち、全く異次元の行動をした人であること。

その四

時系列からも宝川温泉の創業者小野喜与三が 1979 年に 90 歳で他界、龍雄の子であるといわれる父伊与吉が 25 歳のときの子であるなら彼が生まれた丁度そのころ龍雄は処刑前 2 年ほどを利根沼田地区で過ごしていた事がわかっている。

その五

この尾瀬の周辺には当時東北地方から片品を抜けて関東に至る裏ルートが存在し、ここには正に伊予吉の実家白沢村がある。ここで当時旅籠を営んでいた入沢家に龍雄が逗留し、その際入沢家の娘との間にできた子が伊予吉であるとも考えられる。

この仮説が事実であるとすれば群馬県北部の一小作人に過ぎない伊与吉が中央政界に突然出現した事の整合性も取れそうではあるのです。

2　不遇だった伊与吉の晩年と喜与三への事業継承

華々しい業績を残した小野伊与吉でしたが晩年は病に苦しんだようです。その上当時の満州国にて勃発した趙作燐爆殺事件を契機に始まる日中戦争の影響もあり、その林業も徐々に衰退していきました。所有していた広大な山林も農地解放政策等の影響を受け、代替地として縮小分散せざるを得なくなります。当時伊与吉の片腕として働いていたのが三男の喜与三（宝川温泉創業者）で実質的に父親の事業を継承する事になるのですが、そのころ偶然買収した谷川連邦の一角、当時道路も電気もない温泉旅籠、これが現在の宝川温泉汪泉閣の原点となりました。

戦中の混乱期、喜与三は群馬県沼田市を拠点に林業などの事業を展開する傍ら中央へも出向き、当時の政友会大物であった横田千之助、胎中楠衛門、更に事業家の中島知久平（現在のスバルの母体となる中島飛行機製作所創業者）といった人物たちとも親交を持つようになります。特に胎中楠衛門との交流は親密であり終戦前の一時期住み込みの書生として生活を共にしていました。また宝川温泉の屋号「汪泉」は横田千之助が通称横千（よこせん）と呼ばれていたことからそれを文字って汪泉としたものだそうです。

3　温泉事業拡大へ

戦争が終わり日本は復興期に入って行きます。しかし喜与三が手がける山林事業等はどれも芳しくなく、その結果温泉旅館経営の将来性に目を向けた喜与三は温泉事業拡大に力を集中するようになります。旅館には兵役から帰っていた長男の伊喜雄（2011 年 3 月没享年 91）が二代目として加わり、病気療養中だった次男の喜与志（2004 年 4 月没享年 82）も稼業に加わりました。このころの宝川温泉には電気さえ通っておらず旅館の業務用物資は近隣の集落からトロッコを使って搬入するなど至って素朴な環境下にあり、やっと電気、電話が開通したのが 1956 年のことです。しかし今思えば家族それぞれが自分の役割を担当し力を合わせ旅館経営に携わった良き時代でありました。

4　父喜与三と「熊のおじさん」こと長男伊喜雄の確執

昭和 30 年代に入ると利根川源流一帯は藤原、須田貝、八木沢ダムの建設といった巨大プロジェクトが目白押しに続き、地元経済も活況を呈していきます。特に宝川温泉が急激に発展するきっかけとなったのは小野家が所有していた広大な山林（現在水上高原リゾートゴルフ場 2 コース 27 ホールズ）をコクド（当時の国土計画）が一括で買い上げた事からです。これで得た資金（現在の貨幣価値にして約 30 億円）を原資に温泉を整備し、現在の東館（ＲＣ五階建て）を増設するなどして収容人員も飛躍的に延びることになりました。

この様ななか、創業者喜与三の長男伊喜雄（いきお）は天真爛漫な性格で旅館内にて生活するようになってからは、熊、犬、猿といった動物を飼育し、特に近隣の山で捕れた小熊を引き取り、露天風呂に入浴させて宿泊客に見せると言った独特のパフォーマンスを披露「熊のおじさん」また「熊のいる温泉」として旅館の集客に長く貢献することになります。近年でも NHK アーカイブスなどに当時の映像が保存されており、折に触れて紹介されるほどです。更に伊喜雄は登山家としても知られ長年奥利根山岳会の会長を務め、群馬大学が行った利根川水源学術調査団などに支援を行う等、対外的には非常に好感を持たれる人物でもありました。

しかし伊喜雄は反面異常に強い自己顕示欲、支配欲、金銭欲といったものを同時に持ち合わせた人物でもあり、更に軽度の自閉症であり一般的な生産活動に適していない部分もあったため、温泉旅館の一般業務には従事できない事情がありました。本人も内心では旅館業に不向きな自身の性質も理解していたので家業の仕事には参加したくない、しかしながら旅館から完全に離れて自立しての生計は程遠いということは自覚していたのでしょう。そして次第にその旺盛な自己顕示欲と現実との矛盾を埋める行為として父親である喜与三を批判する事で自らの存在価値を示すような行動が顕著になって行きます。今の社会でも良く見られる深刻な親子間のトラブル、ＤＶが次々と小野家に起き現在進行している諸問題全ての原点となっていきました。

第二章　発展に伴う混乱

1　昭和 30 年代後半から昭和 40 年代前半

宝川温泉の経営状態は決して順調ではなかったが時の温泉ブームの中にあって未だに日本一と評される大露天風呂群のおかげで将来の飛躍が十分に感じ取れる状況でした。父喜与三は一貫して強気の経営方針

をとり続け無謀とも思えるほど借財をいとうことなく次々と事業を拡充していきます。しかしこれが伊喜雄の格好の攻撃材料となり、狂ったように父親の事業への反対、抵抗を増長させて行くことになり、時には土木工事、建築等で請負業者との間にトラブルを起こすなど直接的な障害が出る事もありました。

思い余った喜与三が旅館から勘当、追放をしようとしますが、極限まで来ると一端は静かになり暫くするとまた暴れ出すという事を繰り返します。伊喜雄本人も宝川を離れては人並みの生活はおぼつかない事は自覚していたがそれでも自分の自己顕示欲を抑えられなかったのでしょう。父親喜与三としても実の息子の能力は良く理解しており旅館から追放するなどの厳格な姿勢を結局取りきれなかったのです。

2　弟喜与志の立場と生き残りをかけた策謀

喜与三の次男喜与志（現代表取締役社長小野与志雄の父親）は早稲田大学在学中に健康を害し、そのため温泉で療養がてら旅館を手伝うといった生活を送っていました。この人物も幼少のころから自閉症的性格が強く旅館にいても一人黙々と事務仕事に携わっていたが生来人を見下したような言動の多い人物で親族、従業員とも親しく付き合うことが難しい状況でした。しかし半面大変几帳面な性格であり財務の殆どを任せるなど全幅の信頼を寄せていました。こうなると当然兄伊喜雄に取ってはこの弟の存在が大変疎ましくなるわけで、事あるごとに旅館から追放しようと画策を始めます。弟喜与志としても旅館を離れては自分の生活が立ち行かない事は十分理解していたので、それに対する対抗手段を考えます。そして父親に自分の窮状と兄の無法振りを執拗に訴え、見かねた喜与三が昭和 30 年代後半ごろから旅館の主要な不動産、株式等を徐々に分け与えていくようになります。この事は兄の伊喜雄にはまったく告知されないまま秘密裏に実行されていったため以後重大な問題を引き起こし現在進行している一族確執の原点となってしまうのです。

喜与志は 2004 年 4 月に死去しますが、その極端に臆病でありその反面猛烈な闘争心を併せ持つ特異な資質が作り出してきた行動の数々は、この旅館を取り巻く多くの人たちに精神的、物質的な負の遺産を数多く残して行く結果となりました。皮肉なことに現在この温泉の後継者である喜与志の長男与志雄（よしお 59 歳）は強く父親の性格を受け継いでいるようです。

第三章　繁栄と栄光そして混乱の時代へ

1　宝川温泉史上最大の栄誉　皇太子殿下ご夫妻のご宿泊

1969 年 9 月宝川温泉の歴史にとって最大のイベントが訪れます。今になって思えばこの時期が当旅館の絶頂期であったのでしょう。それはこの年、現上皇並びに美智子上皇后（当時皇太子並び妃殿下）が群馬県下を行啓訪問される際、汪泉閣がその宿泊旅館として指定されたのです。三日間の行啓にあたり選ばれたのは赤城ホテル、伊香保温泉小暮旅館、そして宝川温泉汪泉閣でした。数ある宿泊施設の中から選出されるに至った理由は、館主である喜与三が長年自由民主党利根沼田支部長を務め旧群馬一区（大票田利根沼田地区）

における自由民主党の票を一手に握っていたこと。更に当時防衛庁長官であった故藤枝泉介衆議院議員の有力後援者であったこと。また同年死去した娘婿である東京大学医学部教授萩原朗が皇室ご一家の主治医（眼科）であったことなどが影響したものでした。

2　創業者喜与三の死そして長女さよ子の女将復帰

遡ること 1969 年にさよ子の夫萩原朗が死去し、続いて翌年創業者喜与三の妻トヨが亡くなります。それから 2 年後、生前副社長を務めていた故トヨの代役として東京から娘さよ子が呼ばれ、そのころ脳軟化症で入退院を繰り返していた喜与三の介護と旅館経営の仕事を始めます。元々さよ子は戦中から戦後にかけての娘時代、宝川温泉の女将として小野家の家計を支えていた経験もありました。そしてこのころから萩原家が創業者喜与三の延命に大きな役割を果たすことになります。喜与三は 80 才代になってから何度か重病に見舞われますが、さよ子は夫が医師であった事からその人脈を大いに活かし、そのつど最先端の医療を施し喜与三の延命に力を注いでいきます。この様な有形また無形の貢献が無かったら創業者の活動も 10 年間ほどは短いものになっていたと思われますし、宝川温泉のここまでの発展も見られなかったかもしれません。

喜与三は生前宝川温泉の後継者として次男の喜与志を指名すべく、これを遺言の形で長く親交のあった元群馬県議会議員星野光、元法務政務次官衆議院議員で弁護士の熊川次男、元防衛庁長官藤枝泉介氏秘書小林庸一各氏を執行役として彼の意思を託していました。そしてまもなく遺言執行の会議がもたれます。ところがその席上伊喜雄がこの成り行きに激高し、自分が父親の遺言を無視し社長になると強硬に主張を始めます。そしてここで次期社長に指名されていた喜与志があっさりそれを認め自分の社長就任を辞退してしまうのです。喜与志も故人となってしまった今ではその本意は闇の中ではあるのですが、これが喜与志の理解困難な人格を最も良くあらわす事例のひとつでもありました。

3　伊喜雄の逆襲

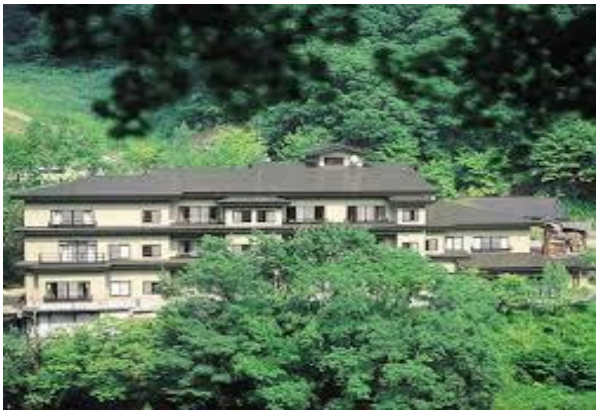
伊喜雄は社長の座にはついたものの弟に寝首をかかれたような状態が我慢できない中で生活を送っていました。そこでかなり強硬な手段に打って出ます。当時はバブル経済真只中、おりから温泉ブームに火がつき露天風呂の宝川はテレビ放映、雑誌等でその人気は頂点に達し群馬県内の旅館稼働率ナンバーワンを毎年取りつづけていたのもこのころの事です。妻文子と伊喜雄は館内にある 3 箇所の売店を自分たちの個人的な直営店舗とし、売り上金を操作する事により 3 年間で約 2 億円の裏金を手に入れていました。この資金

を元に会計士と結託、取締役会議事録を偽造した上で虚偽の増資を行い、この二名が見せかけの大株主となり実権を掌握しようとします。

しかし伊喜雄が行った不正は程なく露見します。弟の喜与志はこの事実を始めから知っていた可能性が強いのですが、彼一流の処世術で見てみぬふりをしていたと考えられています。しかしこのことに最も憤ったのは当時副社長であったさよ子であり、この状態を原状回復させるべく動き出します。そしてさよ子の熱意もあってこの裁判は弟喜与志側の完全勝利となり兄伊喜雄は経営から退場することとなりました。

4　混乱から生まれた別館文山（ぶんざん）

長引く係争の中、伊喜雄側の形勢は不利になって行くのですが、しかしどうしても自分の個人資産を旅館内に持ちたい伊喜雄の妻文子は第一勧業銀行（現みずほ銀行）前橋支店より約 12 億円を独断で調達し旅館敷地内に別館を建設するという暴挙に出ます。今現在 13 室あるこの独立した旅館（別館文山）は営業に供することが出来ていないばかりか 2016 年 11 月にはホームページからも削除され今や宝川温泉に存在していないことになってしまいました。



宝川温泉汪泉閣 別館文山全景

5　三代目現社長、暴君Ｙの登場

まさに「因果は巡る」であります。さよ子が将来の跡取りとして頼み共に裁判を戦い名実ともに小野家の継承者となったのが前社長故喜与志の長男Ｙです。この人物は 1952 年不慮の事故により幼くして亡くなった伊喜雄の長男以来久々の直系男子誕生ということで、祖父母より溺愛されて育ちます。両親の育て方も男三兄弟の中で全くの特別扱い、幼年期から欲しい物は何でも買い与え、大事に育てられます。しかし皮肉なことに徐々に凶暴性を発揮するようになり、既に中学生になるころには父親を殴る蹴るなどＤＶが日常化してきます。この性質は還暦を迎えようとする現在でも全く改善されていません。

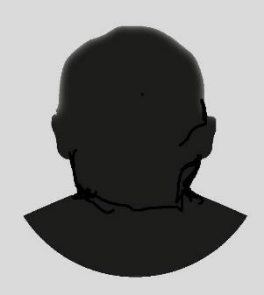
Ｙは二年間の浪人を経験した後、Ｊ大学経済学部に入学、更に留年を繰り返し卒業します。そして伯母であり大女将である萩原さよ子の助けもあり伯父伊喜雄との裁判で勝利した後、専務取締役として旅館に迎えられます。Ｙ本人にとっても長年の夢がかなったことで当然精力的に働きはじめると誰もが予想していました。ところが妻のＫともども入社して早々「我々は土曜、日曜は休みを取る」と宣言し、それ以来これが慣例となり旅館として最も重要な週末に本人の姿が無いという異常事態が定着することになります。

また人に頭を下げる事を極端に嫌う性質があり、そのため本質的に「旅館業が嫌いである」とみずから公言しています。しかしその半面温泉旅館の主人であることには強い拘りを持っているようで、外部での会合などには派手な着流し姿でスポーツカーにのり出席するなどのパフォーマンスは好んで行います。また出入り業者相手の明らかに立場の差がある状況下では嬉々として対応し、反面不満を持つ従業員には容赦なく解雇を言い渡し、親族の提案も全て否定し「大人しくしていれば置いといてやる」と言うような暴言を吐くなどしてその支配体制を確立していきました。

第四章　その後の宝川

1　三代目が引き起こした傷害事件

平成 1995 年 5 月、Ｙの人間性を良く現した事件が起こります。Ｙが専務として旅館の実権を掌握してまもなく、老朽化している旧館の改築案が持ち上がりました。Ｙ もこれには乗り気で計画実現に走り始めます。原案がまとまり株主であり叔父の伊喜雄の承認を得ようとしますが、ここで例によって反対の為の反対が始ってしまいます。Ｙも手を尽くして説得を試みたようですが、父親喜与志まで反対に回りこの一件は頓挫し、楽しみにしていた新館構想もつぶされ、Ｙとしては伊喜雄に対して恨みを募らせる結果となってしまいました。



そしてこの二人の確執が事件に発展します。些細なことで口論となり Ｙ が伊喜雄の顔面を滅多打ちし重傷を負わせてしまいます。当然伊喜雄はただでは収まりません。直ちに当局に傷害罪で告発し徹底的に追求を始めようとします。しかしこれも結局地元選出の国会議員の仲介などあり「親族であるから穏便に」という周囲の説得に諭された形で伊喜雄の告訴は取り下げられることになります。しかしこの事件以後、あれほど激しかった伊喜雄の言動が非常に穏やかになり、暴力によって君臨してきたものがまた暴力によって駆逐される、やりきれないような一族の醜態を見る想いであります。

2　世界第六位の露天風呂打ち壊される

平成 2004 年 3 月から 7 月にかけて宝川温泉にとってとんでもない事件が起きてしまいます。　前述した通り宝川温泉にはその命とも言って良い通称「摩珂の湯」と呼ばれる日本一の大露天風呂があります、いや今となってはあったというべきでしょう。この特別な風呂は日本の露天風呂ブームの火付け役となったばかりでなくロイター通信世界第六位、日本固有の景観を象徴する典型として、これまで多くの顧客に親しまれて様々な書籍の表紙、雑誌のグラビアなど長年にわたり飾ってきたものでした。その温泉の宝とも言うべき大露天風呂が跡形も無く消えてしまったのです。その顛末はこうです。

この当時宝川温泉は立て続けに水害に見舞われていました。その中で件の大露天風呂も毎年のように増水した河川により破損されることになり、そのつど復旧には努めてきてはいましたが、風呂自身も寄る年波には勝てず基礎からの水漏れなども激しく近年ではそのため湯温も下がりお客様にご迷惑をかける状態が続いていて、いずれは抜本的な改修は必要である事はたしかでありました。Y が宝川温泉において独裁体制を確立してから旅館の営繕、修復工事等に関しては全て本人が取り仕切るようになっていたことは前述した通りです。

3　建設会社社長の暴走

このころ旅館の土木工事を一手に引き受けていたのが地元の中堅建設会社 T 組の T 社長です。この人物は温泉の創業者喜与三の盟友、故星野弘会長率いる利根沼田地区最大の地方ゼネコン Y 建設の下請け業者であり、専務 Y が旅館に入る前、暫くこの Y 建設に籍を置いていた関係で工事発注にも気安くできる関係にありました。その T 社長に専務 Y が摩珂の湯の改修工事を依頼したのが 2004 年 4 月、父親喜与志の死去後まもなくでした。おそらくここで大きな誤解が生じたようです。というのは当時専務 Y が度重なる水没の対策、また水漏れを抜本的に修復して欲しい旨 T 社長に依頼したのでしょう。ここで工事を依頼された当の T 氏は、「この風呂を大幅に改造してくれ」と言われた様に拡大解釈したようです。

4　三千万円の愚行

まず風呂の概観を構成していた巨石（一個 10 トンから 20 トン、全て名石と言って良いほどの物である）を全部根の部分に基礎として敷き込んでしまいます。それだけでもとんでもない暴挙でありますが、その上に群馬県下仁田産のまるで墓石のごとき四角柱を 200 個あまり運び込み全く人工的な風呂を作ってしまいました。

これまでそこにあった大露天風呂は深山幽谷に見事に溶け込んだ創業者小野喜与三による渾身の芸術作品と呼んでもいいほどの大露天風呂で、事実旅行雑誌で日本一の称号を何度もいただいた程のものだったわけです。それが全く下品な人口的構築物へと成り果ててしまいました。この工事の間当の Y は毎日のようにこの現場を訪れて工事の進捗をただ傍観していたようです。

この状況に対して最も憤ったのは会長の萩原さよ子でありました。創業者の娘として父親に対して申し訳が立たないと感じたであろうし、その他の親族も自分の家を他人に土足で踏み荒らされたような強い憤りを持った事はたしかでしょう。しかしこの憤懣やるかたない気持ちも世襲の跡取りが起こした事である以上これまで列挙してきた一連の結末と同じく、結局はひたすら耐えるよりしか方法はなかったのです。この愚かな工事に宝川温泉は三千万円を出費することになりました。

第五章　ついに経営危機へ

1　財務の破綻

2007 年夏宝川温泉の経営体制に大きな変化が起こります。それはこれまで先代社長、父親喜与志の死後三年ほど空席となっていた代表取締役社長のポストに専務の Y が就いた事でした。この事は考えてみれば極自然な成り行きであり、父親の死後直ちにその地位に着かなかったのがむしろ不自然であったからです。実はこの動きにはある重要なきっかけがありました。同年 7 月最も大口（約 6 億 2 千万円）の借入先である中小企業金融公庫（現日本政策金融公庫）前橋支店より取締役全員が召喚され以下のような内容を申し渡されることになります。

3　着流し襷（たすき）掛けで銀行へ　見え透いたパフォーマンス

まずこの呼び出しに先立ち宝川温泉から追加融資を申し込んでいましたがその 9 千万円に関しては減額されて 8 千万円となり更に今回は担保能力を超えた貸し出し状況に入っているため、無担保での特別措置とした事。また融資の条件として五つの項目を直ちに改善する事が要求されます。その中に今まで空席となっていた社長を選定することがあったのです。そしてその他の項目を含めて改善が見られない場合には、次の融資は無いものと考えるようにという、ある意味最後通告の様な厳しい通達でした。

ここで注目すべきは銀行に赴く際のＹのいでたちです。着流し姿に襷(たすき)掛け、それも支店長と面談の最中もそのたすきを取ろうともしません。本人にしてみれば銀行からの召喚に際し「忙しい中、取るものもとりあえず駆けつけて参りました」とでも言った演出だったのでしょうか。

4　公庫担当、債権課に移行

2008 年になるとこれまで金融公庫の窓口は前橋支店であったものが埼玉支店扱いとなりました。表向きは営業所が移動しただけなのですが、これには別の意味があります。これまで前橋支店での担当は融資部であったものが埼玉支店に移行するとともに債権第二課担当となったのです。これはすなわち融資対象懸案から債権回収懸案に移行したことを意味します。更に現状 6 億２千万円の借り入れについての返済猶予措置３年間も実行されました。2023 年現在既に 16 年間に渡り返済猶予が継続されていることになりますが公庫が宝川温泉に対し行っている超優遇措置は増え続ける企業のゾンビ化を象徴しているように見えるのです。

5　決算書に見る財務の危機

与志雄の新社長就任に先立って宝川温泉には第 49 期（2007 年度）決算が報告されます。ここ十数年宝川温泉の経理を預かっているのは高崎市の Ｙ 会計事務所ですが、その歴史の中で始めて決算書に 3 ページに渡る意見書が添付されました。その内容とは「2005 年に起こった新潟県中越地震以降その影響による下降トレンドから抜けられておらず売り上げの落ち込みが大きい。そして減価償却その他災害損害保険金収入などを操作してかろうじて 2 百万円ほどの黒字を計上しているが本来ならば 3 千万円近い赤字となる実態であること。そして毎年 1 億 7 千 5 百万円の返済財源が必要で、前期は預貯金を取り崩して充当したが来期からは借入金返済のための借入が必要な事態となる」と財務の危機を報告したものでした。文面は穏やかで客観的表現で書かれているのですが、この意見書の行間からは財務上既にかなり深刻な状況に至っている事が読み取れるのです。

第六章　破綻国家北朝鮮との類似性　それでも宝川はつぶれない

鍵を握るのはＭ銀行Ｍ支店

2023 年夏、宝川温泉はこれまでと同様、何事もなかったように営業を続けています。2007 年以降確実にゾンビ企業化して来た宝川温泉はこの 16 年間営業実績が改善されず宿泊客も右肩下がりで確実に減少しており、当然 10 億円超の負債も一切改善されてはいません。

ではだれがこの不可解な状況を生み出して宝川温泉の延命に力を貸しているのでしょうか。そこにはＭ銀行Ｍ支店』の存在があります。一時期、日本一の大露天風呂を持つ旅館としえ全国的な評価を受けていたこの旅館が今では日本で最悪の温泉旅館と評されるように成り果てました。これを知るか知らずか支援を続けるＭ銀行の存在、単なる運の良さなのでしょうか。

みずほ銀行前橋支店が宝川温泉に対し不自然な融資を垂れ流す理由と思われる四つのこと

1. みずほ銀行内部の裏事情が存在する

まず件の Ｍ 支店は Ｍ 銀行の中でもいわゆる出世コースのルート上にあることです。実際に過去の支店長を見ると当支店以降は中央に近い店へと移動し、その後本店営業部に栄転となるケースが多く見られます。そのため在任中には極力大型の倒産処理などは避けようとする傾向があります。宝川温泉の場合、毎年 3 千万円前後の追加融資でしのげる状態であるので、支店長決済の枠内で対応できます。このため歴代支店長は自分の経歴に傷がつくのを回避するため宝川案件には触ろうとしないばかりか、むしろ守ろうとする傾向にあり、これ自体金融機関として大きな問題です。更にもう一つの条件は長引くマイナス金利政策、大幅な金融緩和があります。今、銀行には行き場のない資金が溢れており宝川温泉はその処理先として重宝されているのでしょう。

端的な例として 2008 年にこんなことがおきました。宝川温泉が資金難になった際、Ｍ銀行自身が主導して群馬県信用保証協会の保証のもと８千万円の融資が実行されたのですが、この時いわゆる救済振り替えが行われ３千万円がみずほ返済にあてられ、真水は５千万円であったわけです。驚くべきはこの時の保証協会との交渉、手続きは全て前橋支店自身が行ったことで、本来なら借り主である宝川温泉経営者が汗を流す場面です。これはみずほが貸付処理のつじつま合わせのため救済振り替えを強行したことは明白であり、更に驚くべきことに 2011 年 3 月の「東日本大震災」ではその一か月後に 7 千万円が無担保（プロパー扱い）で融資されています。これもむしろみずほ側が積極的に融資を持ち掛けたもので、宝川温泉の財務支援というよりみずほ銀行の優良貸し出し先リストに組み込まれている状態とさえ感じられる出来事です。

2. 宝川温泉の企業価値を過大査定している

確かに宝川温泉は特異な独占経営ですが、現存の負債を回復させるだけの企業体力はすでにありません。実際の宝川温泉の資産評価は既に担保割れの状況にあり、これをみずほは無視しています。仮にみずほ側が宝川温泉の総資産を 20 億円と査定しているとすれば年 3 千万円の融資を 10 年続けても 3 億円でしかあり

ません。現在の貸付残高 12 億円とすれはまだ余裕がある計算となります。しかしそれはおかしいのです。なぜなら群馬県信用保証協会は 2008 年の時点で宝川の担保能力は限界であると宣言していますし日本政策金融公庫も 2007 年の時点で追加融資を完全にストップしています。

宝川温泉は 1980 年代のいわゆるバブル経済の真っただ中、群馬県内稼働率トップの旅館として君臨していたことは事実です。しかし時が流れ 2016 年 11 月にはみなかみ温泉最後の老舗旅館がついに力尽きて廃業に追い込まれるなど温泉旅館業界はどこも非常に厳しい状況におかれています。宝川温泉とて例外ではありません。

3. オーナーの劣悪な経営放棄を無視し続けている

これまで述べてきましたように宝川温泉への融資はひたすら M 銀行側の都合により実行されて来たのです。しかしいかに銀行側の事情といえども現オーナーの経営怠慢を金融機関の見地から評価の対象としないのは全く不自然です。実際に過去十数年宝川温泉の経営者が銀行に赴き後の経営方針、返済見通しなど膝を詰めて議論したことなどただの一度もありません。ということは M 銀行にとって経営実態など全く興味は無く宝川温泉への融資は初めからただ既定路線があるだけということを物語る証拠であり金融機関として全く許しがたい怠慢であると感じます。

ここで M 銀行 M 支店の姿勢を端的に物語る出来事をご紹介しておきます。それは 2016 年にあった別館文山の閉鎖です。後に詳しく述べますが、この新館は宝川温泉の中で唯一近代的な施設を備えた 13 室ある建物で、しかも M 銀行自身が 12 億円を融資して建設したものです。それが 2016 年 9 月に担当マネージャーが退職することをきっかけに 10 月には予約サイトが閉鎖され、更に 11 月には専用ホームページからも削除されこの新館は宝川温泉には存在しないこととなりました。

この事は、仮に M 銀行が宝川温泉の経営について常にフォローしているとすればこの新館から少しでも収益を上げるよう指導しているはずです。まして M 自身の融資であればなおさらであります。しかも現社長はこの新館を活かし稼働しようと試みた努力の形跡など全くありません。そのような実態であるにも関わらす M 銀行が宝川温泉への融資を継続するのは、まず融資ありきという姿勢が厳然と存在すること、これを見れば一目瞭然なのであります。

4. 粉飾決算を黙認

さて、少しテクニカルな問題に目を向けましょう。過去 40 年間ほど宝川温泉の決算は高崎市の Y 会計事務所が担当しています。そして過去の決算を振り返ると明らかに不透明な会計処理が行われており、これにより最終的に僅かな黒字が出るよう巧みに数字が操作されているのです。銀行としては黒字決算である以上融資対象の最低条件はクリアしている形です。しかし毎年 3 千万円からの融資を受け続けなければ立ちいかない経営が黒字決算のはずが無いのです。

第七章　小野家世襲　思いもよらないザマーな結末

　さて、これまで述べてきましたように現在宝川温泉がこれ程までに凋落してしまった原因、それは端的に言って世襲の大失敗であったということです。

　創業者小野喜与三の言葉を借りれば「私がこの温泉を残したのは小野家所縁（ゆかり）の者総てがここから平等に利益を得られるようになってほしい」と言うことです。ところが世襲の跡取りが全員その様な心情をもって後継者の任を負っていくとは限らない事をこの宝川温泉物語は教えてくれています。

　世襲三代目であるＹは「おれは宝川温泉の経営権と資産を世襲により手に入れた。だから一生遊んで暮らす資格がある運の良い人間だ。運も実力の内だ」という確信犯的哲学をもって一族を支配しました。彼がまだ専務取締役であった当時は旅館には彼の父親である社長、大女将である叔母、更に副社長である従兄など先輩がいましたが、あまりの独裁ぶりに対し、ある人から、皆の意見を聞き入れ合議の上で経営をしてはどうか、とい問われたのに対し、彼の答えは「私は頭がいい。私のすることは 100 パーセント間違いがない。だから皆には黙ってもらっている」と言ってのけたそうです。実際に金融機関に出向いた際も「うちの会社はボケ老人と無能な親族ばかりで実際は全部私が取り仕切っています」と説明し実際に彼以外銀行等と接触することを一切許さないという徹底ぶりです。

神様の残酷な差配

　さてここで世襲の大どんでん返しがおきました！　三代目 Ｙ には女一人男二人の成人した子供がいます、もちろん連れ合いも。かっては女将見習いとして僅かな期間若女将を務めたこともありました。ところがこの母子は 1990 年代半ば宝川温泉から遠く離れた高崎市で突然別居を始めます。当初は子供の教育の為という名目であったようですが、それ以来みるみる疎遠となり、現段階ではなんと、親子の縁が全く切れた状態となってしまいました。

　これ程鮮やかな世襲の失敗も珍しいでしょう。世の中には世襲で成功している企業は山ほどあります。しかし世襲の怖さはその人物を選べないことであり、反面成功している例は、外から婿養子を迎える、創業者一族と使用人を交互に社長とするなどそのバックアップの方法が整備されているからなのです。残念ながら小野家の場合そこまでの知恵が無かったという事なのでしょう。

最後に

　これまでご紹介して参りましたように、世界的にもたぐいまれな温泉資源と環境を併せ持つ宝川温泉ですが、このままの状態を放置すればいずれ近い将来立ち腐れとなることは自明の理であります。重ねてもうしあげますが、創業者が期待した世襲による事業の継承は尊重すべきでありますが、現在の三代目経営者が稼業としての旅館経営に対し真摯に向き合うことなく利己的な利益追求を続け、更に旅館経営の資質に欠けるとすればもはや本来の世襲の意味は喪失したと考えて良いでしょう。

　この物語はこれで終わりにします。世間にはこれと同じような経験をされている、あるいはされた方々も多いと思います。後になって考えてみれば全てレバ、タラであり、あの時こうすレバ、あーなっていタラとなるわけですが、結論は世襲にこだわることの愚かさをつくづく感じさせられる結果ということでしょう。

　この勝手に応援サイトの後半は、これからの宝川温泉の行く末、また明るい未来はあるのか？を勝手に検証してみようと思っております。

ご一読、ありがとうございました。

「宝川温泉物語」読んだけど

私なんかもー 憂鬱になって来たよ。

これから宝川温泉どーなるのかな?

そーだね、それではこれから宝川温泉がどんな道を歩むのか考えてみよう。

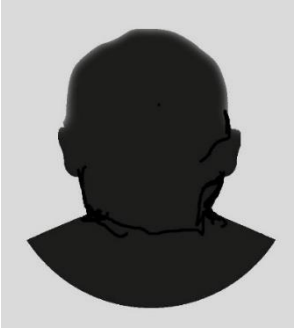
いずれにしろ、宝川温泉の命運はＭ銀行一本勝負であることは間違いない。

もっと言うと、2007 年の時点で宝川は事実上経営破綻している。群馬には地元金融機関がいくつかあるが、たとえば群馬銀行、東亜銀行、利根郡信用金庫、あと公的機関としては日本政策金融公庫、群馬県信用保証協会などだけど、それらから取引を打ち切られているし、更に負債も 10 億円を超えていたからだ。

ところが、その後 2012 年ころから例の安部のミクス、異次元の金融緩和政策が始まり、中小企業への手厚い援助などあり、その時流に乗った形

だ。あと大きいのは東日本大震災の復興支援、更に M 銀行内部のお家事情なども重なり、このゾンビ旅館は劣悪なオペレーションを行っているにもかかわらず今までしぶとく生き延びて来たと言えるんだ。

？？



ほんと運がいいんだね、この社長さん

だけど、逆に言えば何らかの理由で M 銀行 M 支店が宝川温泉への融資を止めたら、それでジ・エンド。もしかすると明日かもしれないよ！

ええ・・・・

アッ！　レイ、このままだと外資に買収されちゃう、なんてこと無いのかしら？

そー、それは大いに考えられるね！

例えば、温泉旅館の再生といえば大成功した「星野リゾート」があるけど、その立ち上げには世界最強の投資銀行ゴールドマン・サックスのバックアップあったことは有名だね。実はそのゴールドマン・サックスが 2007 年の 9 月に宝川を視察しているんだ。

だけど、GS の見解では、確かに素晴らしい温泉であることに違いは無いが、ビジネスとしてみた場合は成立するのはとても難しいとの判断だったようだね。だから、もしビジネスとして魅力があれば、とっくに誰かの手に渡っているんじゃないかと思う！

マ、そりゃそーだ

そんな宝川温泉に

大復活劇はあるのかな?

ハイ、そろそろ宝川温泉大復活の可能性
について「勝手に応援団」的に考えてみよう。

とは言ったものの、どーすりゃいいのよ

このトホホな状況

そんなこと言ってないで、
がんばって考えましょうよ。ファイト・ファイト!

ヨッシャー

僕がなんとかして見せる！

ゆーてますけど・・・・・・・だれ？？

説明しよう！

さっきも言ったけど、先ず宝川復活のカギを握るのはやはり巨額な累積債務だ。ここでありがたいのはその殆どが公的機関、具体的には日本政策金融公庫（旧中小企業金融公庫）へ 6 億 2 千万円、これは 2007 年よりずっと塩漬けになっている、それから多くは信用保証協会が裏書きした債務だ。残りは例の M 銀行への借財のみということ。だからある日突然「耳をそろえて返せ」なんてことにはならない。だけど、コロナ禍における国の助成金なども当然出ているだろうから、これが返せなくなってコロナ倒産なんてこともあるかもしれない。

かんべんしてー

ここで押さえておきたいのは、宝川温泉の強みはやはり「腐っても宝川」といったところがあること。依然として根強い人気がある。だから、なんとか普通なレベルの旅館に戻した上で強力な宣伝活動をして行けば、いくらかでも借財を軽減して行くことも可能になってくるはずなんだ。

イエーイ希望が見えて来たわ！

で一番の障害になるのが世襲三代目の現社長Ｙだ。実は今の巨額な借金を作ったのも、酷評されるサービスの悪さも全てこの男の責任だ。ただし、このままＭ銀行Ｍ支店が支店長決済枠など使って融資を垂れ流せば、このゾンビ状態は延々と続いて行くことになる。Ｍ 銀行は宝川温泉がどんなにひどい内容の旅館であるかには興味がない。とりあえず敗戦処理するのが面倒なだけのこと、無責任極まりない。

さて、ここで少し権利関係のお話をしましょー。

宝川温泉は資本金一千五百万円で発行株式 1500 株、その内 7 割を現社長の家族が保有している。これまでその株式の保有比率を盾に独裁を貫い

てきた結果がこのざまなんだ。「俺は世襲によりこの旅館の経営権と資産を手に入れた運のいい人間だ、運も実力のうちだ。だから一生遊んで暮らす資格がある」。このような哲学で生きて来た男だ、サービス業なんか絶対にやってはいけない人間だよ。

　ここで小野家の世襲についてチョット説明するね。まず創業者の小野喜与三がいて長男伊喜雄、それから次男喜与志が後を取って社長をやり、現在のＹが三世代目になるわけだ。なぜ彼が世襲の跡取りとして価値があるかといえば、彼の子供の一人でも旅館を継いで子孫に継承する事が期待されるからだよね。創業者の喜与三もだからこそ三分の二に及ぶ株式を与志雄に継承させたわけだ。親族もそれがあるからこいつの横暴に耐え従って来たわけだろー。ところがだ、バカな話、Ｙは来年還暦を迎えるけど、もう十年も前から嫁と三人の子供たちと完全に縁が切れた状態になっている。

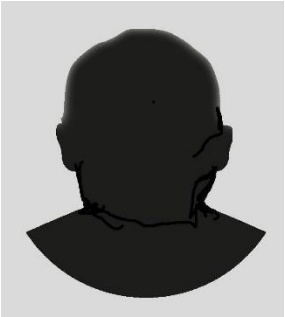
みーんな、いなくなっちゃったのね

　縁が切れただとー、何だそれ！何のための跡取りなんだ。結局その程度の人間なんだよ。ふざけるな！。世間には世襲の失敗ってよく聞くけれど、これだけ見事なズッコケ珍しいよ。

これまで Y を世襲の跡取りとして尊重して容認して来た親族が受けた損害をどうしてくれるんだ！ま、こんな人間に唯々諾々と従ってきた親戚一同の体たらくも問題だけどね。

そんな人さっさと退場しろってこと

いずれにしろ、こんな経営状態では十数億円に上る負債を克服することなんて不可能だし、更に旅館の資産は全て差し押さえの対象だから結局今のＹ社長は裸の王様ってことだよ。



えっ、そーかなー？？？

さて、ここで結論を導き出す事なんて出来ないけど、言える事はある。一つは宝川温泉汪泉閣の世襲はもはや完全に破綻したということ。もう一つは積み上がった巨額な負債を克服できるのだろうかという事。唯一できるとすれば金融機関、この場合 M 銀行を納得させられる実現可能な再建プログラムを見せられるかどうかがカギとなる。だけど、だけど、それにはメッチャ強いリーダーシップが必要になるね。

そんなこんなで、これから宝川温泉どうなるんでしょー

皆さん、これからも見守って応援してくださいね！

よろしくね

Regenerate Takaragawa Hot Spring Spa

Autumn 2012 international news agency REUTERS announced

“Top 10 Hot Springs around the World”.

Takaragawa Hot Springs in Japan is chosen as the 6th in the world. It was the only ranked spa in all of Asian region.

Evaluation by Reuters is as follows:

Takaragawa Hot Springs in Japan is chosen as the 6th in the world

6th ranked Takaragawa Onsen, Japan;
One of the best onsen (hot pools) in Japan is also one of the most scenic. The beautiful riverside setting of Takaragawa Onsen, combined with its healing waters, has secured its place in our "Top 10". Two hours from Tokyo, the onsen has four large outdoor baths (three Men/Women and one Women Only), two indoor general purpose areas and several baths. The spring's waters have long been reputed for helping nervous disorders, bad circulation, skin irritation, sore muscles and joints, aches, bruises and fatigue. Takaragawa Onsen is beautiful in every season, but it’s in autumn when the leaves turn a golden red which make the view truly spectacular.

REUTERS feature describes the Hot Springs as being in harmony with the natural environment. However, as in all natural tourist attraction sites, there is always the issue of ecological and economy related balance. Reuter encourages tourists to visit the springs and its beautiful region without endangering the springs and other natural resources in the area.

Mentioned earlier, four huge open-air bath of the Takaragawa Hot Springs including the great open-air bath for Women Only... In fact I participated in its construction work from 1972 to 1974

At that time I was a young college graduate. And I received direction from my grandfather who was a founder of this spa along with an assortment of craftsmen who later completed the spa's construction.

Several years later, I moved to Southern California USA and spent quarter of a

century there until returning to Japan 15 years ago.

Takaragawa's status after I departed for USA was one bestowed with a bubble economy of the 80's and was deemed by experts as the best in Japan's Hot-Springs industry!

However, if the aforementioned occurred in the 2000's, the results would have been vastly different. In recent years, neighboring hot spring have not been maintained and are in ruins. However, Takaragawa is not much different.

Problems: Takaragawa Hot Springs has been managed by the third generation to its original founder. Regrettably owing much to the nature of human tendencies, the managerial successors applied insolent hotel operation practices. As a result, the spring has incurred an accumulated debt of nearly 10 million dollars in the past 20 years.

However, what are the reasons for Takaragawa not failing even while in its current 2023 condition? It is because of the existence of the Mizuho Bank which has continued to discretely loan money to the Takaragawa.

As a matter of fact, in the year 2007 (16 years ago) a public finance corporation, a public credit guarantor and some local banks ceased business with Takaragawa all at once. This is due to questionable/fraudulent loan activity which resulted in Mizuho Bank being the one and only remaining lender.

In Japan, Fall 2017 even a government owned loan bank was shaken by fraudulent loan practices. There is the operating technique of the Mizuho Bank which has remained stalwart and consistent, tolerated window dressing settlements and over many consentual years, Mizuho has stayed in the picture.

Anyhow, I am not sure what is going on internally at Mizuho Bank. But it is not healthy to have lent Takaragawa prolongation of the life pending on my being the owner ...an owner, who by the way, has little active overall management experience during this past decade...

If the Mizuho stops questionable financial aid and commences process of full payback for excess of 5 million dollars and another 6.2 million dollars of an outstanding public loan, Takaragawa will be facing a bankruptcy situation immediately.

However, nevertheless, I believe that Takaragawa possesses latent recovery ability. Understandably, Takaragawa might be forced to relinquish its sixth place Hot

Springs World Class Status. Recently it is becoming popular again especially with foreign travelers. However, it is impossible to restore its financial shine of its former luster...at least not as long as the third generation maintains grasp stockholder rights. In other words the management right of Takaragawa is inseparable from a founder's kinsfolk, and makes recovery all the more difficult.

I think I will try some concrete simulation which reproduces the Takaragawa here:

1. Produce a precise and realistic reproduction strategy in order to yiel surplus financial results in a short period of time.

2. Negotiate with Mizuho Bank Maebashi Branch in order to stop the fraudulent loan in order to give up the ownership of current stockholders.

3. After a capital increase and acquisition of management right, negotiate to a grace repayment to the public loan institution for 6.2 million dollars as well as Mizuho Banks’s 5 plus million dollars loan. After minimum basic general infrastructure

improvements immediately start the reproduction.

The above is a fundamental scenario which I consider for the beautiful and historical Takaragawa Hot Springs.

I will be pleased if you can approve. Thank you very much

Raymond H 2023/08/26